すずか倶楽部　中西 大輔　議員

1 鈴鹿市での循環社会の形成について
（1）※1バイオマス由来燃料への取り組みは
（2）廃食用油の※2BDFへのリサイクル
（3）他地域モデルの活用について
（4）今後の取り組みについて

質問1（2）　学校給食廃食油の利用は可能か。廃食油から精製されるバイオディーゼル燃料はC-BUSなどに利用可能か。

※1サトウキビやトウモロコシから取れる燃料
※2バイオディーセル

答弁1（2）　学校給食廃食油利用は可能。バイオディーゼル燃料が、※3品確法に適合し、安定供給が可能であれば、C-BUSなどに利用は可能。

※3揮発油等の品質の確保等に関する法律

質問1（3）　家庭廃食油回収にポイントなどを付与し、農産物直販所などで利用可能にし、農水産業者への補助金として活用を考えられるか。耕作放棄地で油糧作物生産は可能か。観光資源として油糧作物の可能性は。質問で提示した循環システムは、教育現場での活用は可能であるか。

答弁1（3）　家庭廃食油回収には課題もあり今後検討していく必要がある。油糧作物の生産は耕作放棄地の有効活用は先進地事例とも照らし合わせ検討し観光資源としての活用は検討の余地はあるものの課題も多いと考えている。教育現場での学習に取り入れる活用はできるものと考えている。

質問1（4）　循環システムの形成に、市は前向きに検討していくことはできるのか。

答弁1（4）　課題を明確にし、実効性のある計画が具体化し全市的に確実に機能するならば、今後、検討は可能。

公明党　池上 茂樹　議員

1 地域と連携した教育活動の推進について
（1）学校支援ボランティアの現状について
（2）地域を活用した今後の教育活動の推進について
2 鈴鹿市の不登校の現状とその対策について

質問1（1）　学校、保護者、地域と連携した学校支援ボランティアの現状と今後の学校支援ボランティアの拡充は。

答弁1（1）　学習ボランティアは759名、学習活動以外では、図書館の整理・運営、花壇の整備等の環境美化活動で512名、安全安心に関しては4,014名の方々のご支援により、教員が子どもと向き合う時間が確保できるようになった。環境整備の支援は、現在6校で、今後具体的な支援活動を記載して募集していく。

質問1（2）　地域には、多種多様の専門性や特技を持った方々が居るが、地域を活用した今後の教育活動の推進は。

答弁1（2）　地域の方の知識等を次世代を担う子どもたちに生かすことができる人材バンクをつくる。

質問2　全国の小中学校で07年度の「不登校」が12万9,254人と06年度より1.9%増加しているが、本市の「不登校」の現状と対策は。

答弁2　06年度267人、07年度218人。中学校10校には、カウンセラーを配置し不登校生徒への対応や教育相談を実施している。

政友会　鈴木 義夫　議員

1 学童保育所の設備資金補助金制度について
2 道路工事等の促進について

質問1　学童保育所の必要性は年々高まっている。しかし、その設備資金の補助金制度は極めて主体性に乏しく、「こども未来財団」が補助金をだす場合のみ、それに便乗して当市も不足分を補助するが、それ以外はほとんど支援しない制度である。何とかならないか。

答弁1　近隣他市にはかなり手厚い補助金制度を持つところもあり、今後については、ご指摘の点をも踏まえ制度充実に向けて前向きに検討したい。

質問2　都市計画道路の西玉垣―秋永線の市道延伸工事はかなり進捗しているが、ごく一部の地権者が用地買収に協力しないため開通の目途が立っていない。「公共の福祉」のため、最終的には強制収用も検討すべきではないか。

答弁2　事業用地とする土地の一部が未だ買収できていないのは事実。地権者の理解を得るべく今後も誠意をもって対処したい。ただ、速やかな事業推進が求められていることも認識しており、重要性,緊急性等を総合的に判断して事業を推進すべきと考えている。